

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの目標や課題に丁寧に対応し、確かな学力の定着させるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。 ②主体的な学習活動を中心に、意欲・関心を高め、社会人として求められる資質・能力を培う。	①主体的・対話的な学習活動が多く取り入れるよう、組織的な授業づくりを推進し、意欲や関心が高まるような授業を行う。 ②学校行事・生徒会活動を通して、生徒の主体的・協働的な学びの場を多く作るとともに、充実感や達成感を共有する。	①Google Classroomの活用を積極的にいき、対面学習以外での主体的な学習活動を進める。 ②新型コロナウイルス感染症の予防に留意し、生徒の主体的な活動を適正にサポートし、生徒の自立する力を育む活動支援を行う。	①「生徒による授業評価」の集計結果を教科会で十分検討し、「授業の在り方について」、「学習の状況について」の項目の肯定的な評価の割合を上げることができたか。 ②各学校行事の参加率を増やすことができたか。	①Classroomを用いて課題や、連絡事項等を授業時間外でも提供するなど、自宅学習にも役立つ補助ツールとしての活用が増えた。これによって、自宅学習などの主体的な学習活動が進んできた。 ②文化祭、体育祭等の校内に於ける行事については、新型コロナウイルス感染防止に配慮して実施し、多くの生徒が積極的に取り組み、充実したものとなった。	①Classroomなどを利用することによって授業形態が多様になり、これに伴って授業評価の結果も変化している。今後はこれまでとの違いを比較検討し、課題を抽出し、さらなる授業改善を行っていきたい。 ②新型コロナウイルス感染症が終息することで、コロナ渦以前の活動が可能となるが、生徒数減少を見据えた学校行事のあり方を模索することが今後の課題である。	ClassroomなどICTを活用する機会が多くなってきたが、BYODの使い方や説明をもう少し丁寧に行い主体性を引き出してほしい。また、ICTの推進に伴い、安定した通信を維持できるネット環境の整備に取り組んでほしい。	①コロナ渦でClassroomなどのICTを活用する機会が多くなったが、多様な生徒に対応できるよう、きめ細かい指導を行うことができた。今後も引き続き、生徒の特性に応じた教育の構築を課題と位置付けていく。 ②学校行事において新型コロナウイルス感染症の予防に留意し、生徒の支援に努めた結果、多くの生徒が主体的・協働的に取り組み、生徒個々の成長に繋げることができた。今後の生徒数減少を見据えた学校行事のあり方を検討することが課題である。	①ICTを活用した授業の推進のため、教材の共有や研修を設定し、教員のスキルアップを図る。生徒による授業評価で好評価の比率を、引き続き、8割以上を目標に高めていく ②新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら、本校の教育活動がより効果的なものとなるよう計画的に実行する。
2 生徒指導・支援	①生徒による主体的な行事運営を活性化させ、豊かな人間性を涵養する。 ②ルールに基づいた学校生活のもとで、しっかりとした判断力と規律を守る意識を育て、自律した社会人として成長するよう指導する。	学校生活の各場面において、円滑な社会参加に向け、基本的な生活習慣を確立し、社会の一員として自立できる規範意識や公正な判断力をはぐくむ。特に授業を大切することを呼びかける。また、いじめ防止に努める。	基本的な生活習慣の確立を目指し、指導方針の周知を徹底する。支援を要する生徒についての把握に努め、外部機関とも連携して適切な支援策を立てる。また日頃から職員間で情報共有し、粘り強い指導を行う。	いじめ等指導方針について周知し、ぶれない生徒指導を継続的に行えたか。また支援を要する生徒の情報を共有し、組織的に支援することができたか。 生徒をよく観察し、声をかけるなど、積極的に支援することができたか。	①コロナ対応で制限を受けた部分はあるが、生徒の主体的な活動を基盤とする生徒会活動は実施できている。 ②コロナ対応にマンパワーを割り振らざるを得ない状況のため、授業中の立ち番や校内外の巡回が減少し、中抜けや校外での問題行動がやや目立つようになった。	①生徒会役員や行事運営委員会の生徒がリーダーシップを発揮できるようにし、多くの生徒を巻き込む運営を目指す。 ②臨時の生徒指導強化週間を設け、その期間は巡回等を強化し、特に校外での問題行動の未然防止に努める。	感染症予防対策を講じて実施された文化祭や体育祭は、内容の検討を重ね、素晴らしい結果を残せたのではないかと引き続き、感染症対策を講じ、生徒と職員、保護者が一体となった行事運営に努めてほしい。また、生徒のメンタルヘルスにも注力してほしい。	①感染症対策を講じて、生徒主体の学校行事を生徒会生徒自ら、リーダーシップを発揮し、実施できたことは大きな成果であった。行事への生徒の参加率を引き続き上げていきたい。 ②校内外の巡回指導を定期的実施し、非行の未然防止に努めた。引き続き、基本的な生活習慣の確立を目指した指導をするとともに、教育相談を組織的に充実させる。	①ICTによる健康観察をさらに充実させ、これからも続く感染症対策の負担軽減を図りつつ、学校生活の充実を目指す。 ②スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターと連携し、組織的な相談体制の充実を進めていく。基本的な生活習慣の確立のため、校内外で関係機関と連携し、生徒支援をおこなう。

3	進路指導・支援	①幅広い進路選択に応えることができるよう、キャリア教育の充実と、進路支援体制を確立する。	①生徒が社会的に自立するため、キャリア教育を充実させ、希望する進路の実現を支援する。 ②卒業に向けた履修指導に加え1年次からの指導を充実させる。	①外部機関との連携や生徒情報の共有化により組織的に進路指導を進める。 ②1年次から面談週間を履修指導にとどまらず、進路支援の機会としても活用する。	①組織的な進路指導により、生徒一人ひとりの適性や能力に応じた支援体制を確立できたか。 ②面談週間については履修指導にとどまらず、進路支援の機会としても機能させられたか。	①生徒が就職・進学にむけてより前向きに活動するようになりつつある。 ②面談週間での丁寧な対応に加え、1年次から授業や講演会等を通じての意識醸成が成果を出しつつある。	①中学・高校在籍時にコロナの影響を受けた生徒がいることをふまえた進路指導を検討する必要がある。 ②ナイーブな生徒や複雑な家庭事情を持つ生徒が多く在籍することをふまえ、個の特性に配慮した慎重な指導を心がける必要がある。	生徒の希望する進路実現に向けて、感染症対策を講じて行った分野別進路説明会等は、生徒にとってプラスとなった。また3者面談等でのきめ細かい支援を引き続き行ってほしい。	さまざまな生徒の進路支援を丁寧に行い、多くの進路希望の実現を図ることができた。引き続き、進路が未定の生徒を減らすために、外部機関等と連携し、きめ細かな進路支援を行っていく。	多方面にわたる進路希望に対して対応できるよう、関係機関と連携し、教員の研修の機会を充実させる。
4	地域等との協働	①地域との協働・連携による開かれた学校づくりを目指す。	①CMSや学校説明会等の広報活動や、個別見学の受け入れをより充実させる。また、保護者や地域社会の人々の意見を反映した、開かれた学校づくりを推進する。 ②PTA活動の中で、生徒支援及び地域連携につながる活動を模索し、推進する。	①本校生徒及び保護者、中学生とその保護者など、中心となる閲覧者のニーズを踏まえた情報提供ができるよう工夫するとともに、CMSをスムーズに更新していけるような体制づくりを進める。 ②生徒支援及び地域との協働に繋がる活動の実施体制を構築する。	①本校生徒及び保護者、中学生とその保護者など、中心となる閲覧者のニーズを踏まえた情報提供を機に応じて行い、迅速かつ的確な情報を伝えることができたか。 ②学校行事や地域と連携する活動をより充実させ、教育の質の向上を図ることができたか。	①学校ホームページを中心に閲覧者のニーズを意識した情報を見やすく工夫し、即応性をもって提供できている。 ②新型コロナウイルス感染症対策という制約がある中、地域との連携は積極的にできなかったが、地域貢献活動(地域清掃)において、多少ではあるが地域理解及び公德心の育成に資することができた。また、コロナ渦での学校行事においては、多くの生徒が積極的に取り組み、個々の成長に繋がるものとなった。	①今後も要望に耳を傾け、本校の教育活動をよりわかりやすく伝えることで教育活動の活性化を図る。 ②新型コロナウイルス感染症の終息後、より充実した教育活動ができるように検討したい。	感染症対策を講じて、生徒と教員による地域貢献活動を実施できたことは、地域との連携を行う上で良い結果となった。今後は、感染症対策を講じて、どのような活動ができるのか、PTAや関係機関と検討を重ねてほしい。	①学校ホームページや学校説明会等において、本校の教育活動を積極的に発信することに努め、より多くの生徒、保護者、地域の方々から理解と信頼を得ることができた。 ②コロナ渦において制限があるなか、地域貢献活動(地域清掃)等、最大限の活動に努め、生徒の成長に資することができた。PTA活動においても、広報誌の発行、各学校行事での支援等、本校の教育活動に寄与するところ大であった。今後は、生徒数減少やコロナ渦において、本校の教育活動がより効率的で効果的なものとするのが課題である。	①生徒や保護者の要望に耳を傾け、より充実した教育活動を展開していく。 ②活動内容を精査し、現状に見合った教育、支援体制を構築する。
5	学校管理 学校運営	①社会から信用される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底する。 ②教職員の働き方改革推進のために職場の意識改革を図る。	①事故・不祥事防止について意識の徹底を図り、事故・不祥事の根絶に努めるとともに、保護者、県民にも丁寧に対応する。 ②教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む体制づくりに努める。	①日常業務の中で教員間の情報交換を適切に行うとともに、事例に基づいた研修を企画して事故不祥事防止の意識を啓発する。 ②生徒の指導・支援に資するために、学校運営の効率化を進める。	①日頃の注意喚起や事例に基づいた事故不祥事防止会議などを適正に実施し、事故不祥事の根絶を達成できたか。 ②職員の共通理解のもと、業務の整理と効率化を推進することができたか。	①全体打合せ時や校内事故・不祥事防止会議等で職員の事故・不祥事防止につなげることができた。 ②業務の効率化を図るため、グループ分掌の整理・統合を検討している。	①引き続き、職員の啓発に努めるとともに、事故・不祥事防止に向けてセルフマネジメントできるように情報共有や注意喚起していく。 ②継続して、業務のスリム化、効率化を進めていく。	引き続き、不祥事防止に努め、生徒にとって安心できる学校環境づくりに貢献してほしい。	事故不祥事防止のために、不祥事防止会議でセルフチェックや、他校の事故案件についての情報共有、討議形式でのわいせつ事案研修会等、さまざまな角度から職員の意識啓発を行った。	①職員への事故不祥事防止への意識啓発を引き続き行うとともに、セルフマネジメントできるように日頃から情報発信を継続して行う。 ②業務の効率化のため、業務の必要性について、企画会議等を中心に検討する。